

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)佐渡の明るい未来をつくる方程式：DMO×CCRC＝PPKについて

- ① 民間主導型の温泉CCRCモデルの可能性
- ② 公設民営型の温泉CCRCモデルの提案
- ③ 佐渡版DMO＝観光地域づくりとの連携（入島税や宿泊税、協力金等の可能性）

(2)三資産プロモーション×芸術祭の実現について

- ①（世界的）三資産プロモーションの現状
- ②さとの島銀河芸術祭 2018 の概要
- ③佐渡における二次交通の問題の改善

(3)地域運営組織（RMO）の構築について

- ①佐渡版地域運営組織（RMO）のビジョン
- ②23 の小学校区単位で実行する地域の情報化（地域支援員、地域おこし協力隊等）
- ③DMOやCCRCとの連携の可能性

■■■演壇にて■■■

皆さん、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き！！政風会の室岡啓史でございます。『なんでも提案団』として通告に従い一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

## 【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)佐渡の明るい未来をつくる方程式：DMO×CCRC＝PPKについて

- ① 民間主導型の温泉CCRCモデルの可能性
- ② 公設民営型の温泉CCRCモデルの提案
- ③ 佐渡版DMO＝観光地域づくりとの連携（入島税や宿泊税、協力金等の可能性）

シニアが健康に暮らせる地域づくりについて、佐渡版地域包括ケアシステム構築の進捗状況について再度お尋ねします。2025年に構築を目標としている現状において、どのようなところに重きを置くのかについてお答えください。私は、CCRC（Continuing Care Retirement Community）＝「継続的なケア付きの高齢者の共同体」の考え方を取り入れ、集落で暮らす高齢者の皆さんが健康長寿でありつづけられる佐渡づくりが必要だと考えます。例えば、太鼓で心も体も健康になるエクサドンやしゃきっと教室など、介護予防教室と温泉施設利活用を掛け算して、健康寿命伸長策、認知症予防対策をするべきではないかと考えます。去る7月24日に金井コミュニティセンターにて開催されたCCRCの勉強会に私も参加させていただきました。佐渡においては、温泉の利活用とCCRCとの掛け算に大きな可能性を見出すことができると確信しました。民間主導型の温泉CCRCモデルの可能性についてはいかがお考えでしょうか。また、公設民営型のモデルとして、ウッドパレス妹背をリノベーションした上で、羽茂温泉やプール等の周辺施設を活用する公設民営型の温泉CCRCモデル構築を提案いたします。勉強会を受けての佐渡市の見解をお聞かせください。

アクティブシニアつまりは、元気な高齢者の皆さんが、小中学校に赴き総合学習に関わることや、子どもを預かるような多世代交流をしたり、野菜作りや草刈りなどの地域の仕事を行うこと、観光のお客様に集落のガイドを行うことなどによって、生き甲斐を見出し、ひいては健康長寿であり続けること。それが観光DMOの観光地域づくりの中で掛け算されていく仕組みづくりが必要だと考えます。私は、観光DMOは「旅行商品の地産地消を推進する組織」という解釈をしておりますが、より多くの高齢者の方が集落への貢献という役割を担いながら暮らしていただくことが重要だと考えます。

そこで、空き家・廃旅館・廃校舎などをリノベーションして、アクティブシニアの皆さんの住まいとしたり、集落ガイドや生活必需品購入の拠点として利活用できないかと考えます。佐渡の明るい未来をつくる方程式：DMO×CCRC＝PPKとは、観光地域づくりに関わりながら、元気な高齢者として日々の生活を営み、地域に貢献していただくことで、ピンピンコロリの最期を迎えることができれば、その人にとってとても幸せな人生だったと思えるような世界が実現できるのではないかと考えています。DMO×CCRC＝PPKが佐渡の明るい未来をつくる方程式であるということについて、佐渡市の見解をお聞かせください。

平成30年度4月1日目標での立ち上げを目指す、佐渡版DMO＝観光地域づくりとの連携についてお尋ねします。先ほどのとおり、DMOとCCRCは非常に関連性が大きい概念であると考えます。観光地域づくりに関連する複数の専門家の皆さんが講師として佐渡へおいでくださり、専門家からレクチャーを受ける機会に恵まれております。観光のお客様から1人100円をいただくというような考え方もあることをお教えいただきました。島に入る際の運賃に100円上乗せする入島税もしくは1泊あたり100円を上乗せする宿泊税の可能性についてはいかがお考えでしょうか？富士山の登山客を対象とする『富士山保全協力金』といった協力金という方法もあるかと思えます。いずれかが実現すれば、佐渡の観光振興において公的な役割を担う佐渡版DMOの資金源の一つとなり、同時に入込数もしくは宿泊人数の定量化を図ることもできます。佐渡市の見解をお聞かせください。

## (2)三資産プロモーション×芸術祭の実現について

### ①(世界的)三資産プロモーションの現状

### ②さどの島銀河芸術祭2018の概要

### ③佐渡における二次交通の問題の改善

次に三資産プロモーション×芸術祭の実現についてお尋ねいたします。世界遺産登録を目指す佐渡金銀山、2011年6月に能登と並び日本で最初に登録された佐渡の世界農業遺産(ジラス)、2013年9月に日本ジオパークに登録された佐渡ジオパークという三資産の利活用を行うべきではないかと考えます。それぞれのガイド養成講座を数年前から受けて感じることは、佐渡の魅力は知れば知るほど深みを増してくるということです。(世界的)三資産プロモーションの現状についてお教えてください。

また、さどの島銀河芸術祭2018の開催に向け、実行委員会として昨年度のプレ開催、本年度の勉強会およびマッチングを企画しており、来年度には本祭を実現するべく鋭意準備中とお聞きしております。実行委員会としては、いわゆる都市型の芸術祭ではなく、島の魅力を活かし、かつ今ある芸術・芸能も含めた佐渡の資産の魅力がより多くの方々に伝わる芸術祭にしたいということだそうです。また、十日町市を中心に開催される『大地の芸術祭』や新潟市で開催される『水と土の芸術祭』との連携も図られる予定とのことでした。

よって、三資産プロモーションと芸術祭とを掛け算することで、佐渡の魅力を堪能する芸術のツーリズムをつくりあげ、ひいては、佐渡の集落を堪能する仕組みづくりができるのではないかと考えますがいかがお考えでしょうか。さどの島銀河芸術祭2018の概要についてお教えてください。

とりわけ、島外からの来訪者に対しては、二次交通の課題が挙げられると想定されます。観光振興の視点からも同様の課題が想定されますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

### (3)地域運営組織（RMO）の構築について

#### ①佐渡版地域運営組織（RMO）のビジョン

#### ②23の小学校区単位で実行する地域の情報化（地域支援員、地域おこし協力隊等）

#### ③DMOやCCRCとの連携の可能性

最後に、総務省が主導する地域運営組織（RMO：Region Management Organization）の構築に関して、佐渡におけるビジョンについてお尋ねします。上越市のNPO法人・かみえちご山里ファン倶楽部の関原剛さんより、佐渡にお越しいただきセミナーとワークショップが開催されております。小さな『クニ』の集合体として佐渡があるという考え方は、大変勉強になりました。私は、佐渡の地域運営組織を23の小学校区単位に細分化し、運営するべきではないかと考えております。例えば、集落のマップやガイドブック作成等、地域の情報化を集落支援員（地域活動支援員）や地域おこし協力隊の招聘により実現できるのではないかと考えております。佐渡市の見解をお聞かせください。

また、DMOやCCRCとの連携についてですが例えば、佐渡の学校給食に遊休農地を活用した野菜を提供する等により連携できると考えます。アクティブシニア層をメインターゲットとし、学校給食用の野菜を遊休農地で作ってもらう。売り先は決まっており、佐渡の子どもたちが美味しく食べてくれるということに生き甲斐を見出すことができる。地産食材供給の現状を打破することができる取り組みになると考えます。RMO、DMO、CCRCが連動することで佐渡の明るい未来をつくることができると確信しております。

以上で、一回目の質問を終了します。

---